
約束

蒲公英

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

約束

【Nコード】

N6917U

【作者名】

蒲公英

【あらすじ】

年に一度しか会わない人。言わないけどね、何にも始まつたりはしないんだけどね。ただ、それだけ。

年に一度しか会わないなんて、七夕みたいだね。

私たちがサークルの活動会費捻出のためにはじめた、お祭りの夜の店は後輩たちにも受け継がれ、すっかり伝統行事になりつつある。OBになってからも暗黙の約束で、毎年同じ面々が顔を揃える。別に手伝う訳じゃない。ちゃんと手は足りている。ただ、誰かに会えるからと足を運ぶだけだ。みんな思いは同じようで、お祭りの日は賑やかなOB会になる。

あいつは 今年も来てる。

彼女は連れてない。

去年はバツが悪かったもの。お互いに相手連れてきちゃって、気まずいのなんの。

いや、いいんだけどね。

色っぽい関係になんてなったことないし。

「よっ！久しぶり」

片手を挙げながら、すでに少し呑んでるね、ご機嫌な顔。

「おう、一年ぶりだな、達者だったか？」

年寄り臭い言葉遣いは変わらないね。

去年連れてた女の子はすいぶん年下だったと思うけど、直してもらえなかったのかな。

「おまえ、去年の男は？」

・・・デリカシー、ゼロ。

「別れた。そっちはどうなのよ？」

「あつ聞いてくれちゃう？今度の子は年上。上だけど、頼りなくて可愛い」

勝手に言っとけ。

お祭を一周しようと思き出すと、人混みに流されてはぐれそうになった。

集合場所はわかってるんだから、はぐれても問題ないけど途中からあいつと手をつなぐ。

ざわざわと人の波の中、あいつが声を張り上げて言う。

「俺たちってさ、七夕みたいだよな。年に一回だけ会う機会があるの」

「そうだね、七夕みたいだね」

「浴衣、似合うじゃん」

ああ、そう。

その言葉が聞きたくて、暑い中帯締めて来たんだよ。絶対に言わないけど。

これからも、毎年会っても絶対口になんか出さないけど。

お祭の灯りが落ちて、売上を纏めている後輩たちに声をかけて、O Bたちは夜の街に繰り出す。

もうじき、お別れの間。

またね。

またね。

また一年後に会いましょう。

左手に水風船を持ったまま、来年の約束をして解散する。

また一年後に会いましょう。

f i n .

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6917u/>

約束

2011年7月9日12時56分発行